

III 調査結果のあらまし

第47回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割を超えた。

(2) 好きな理由

宇都宮市で好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が5割半ばで最も多く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「街に活気がないところ」が4割近くで最も多く、次いで「交通マナーの悪さ」、「交通渋滞の多さ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が7割を超えて最も多く、「手に入れていない」は1割半ばである。

(1-1) 「広報うつのみや」の閲読状況

「広報うつのみや」を入手していると答えた方に、どの程度読んでいるか聞いてみると、「くわしく読む」と「ざっと読む」と「関心のあるところだけを読む」を合わせた【読む（計）】は8割台半ばであった。一方、「あまり読まない」と「まったく読まない」を合わせた【読まない（計）】は約1割であった。

(1-2) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」を読んでいると答えた方に、主にどの記事を読んでいるか聞いてみると、「健康・福祉・保険・年金」が5割を超えて最も多く、次いで「暮らし・住まい・環境・安全・交通」、「各施設の催し物（宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など）」、「情報カレンダー（市のイベントカレンダー）」、「特集（市の重点事業）」、「文化・教養・スポーツ」と続いている。

(1-3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していないと答えた方に、入手していない理由を聞いてみると、「入手方法を知らないため」が6割を超えて最も多くなっている。

(2) 「広報うつのみや」で充実してほしい情報

今後、「広報うつのみや」で取り上げてほしい、または充実してほしい情報については、「身近な暮らしに関すること」が3割半ばで最も多く、次いで「市の行事や催しのお知らせ」、「保健・医療など健康に関すること」、「市の各種制度や事務手続きの説明」はそれぞれ3割であった。

(3) 「広報うつのみや」の発行日について

「広報うつのみや」の発行日を変更すべきかどうかについては、「現在のままでよい」が9割半ばで最も多かった。

(4) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

「広報うつのみや」以外の12の広告媒体について、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見た（聞いた）ことがある（計）】は、「インターネット（宇都宮市ホームページ）」が3割で最も多く、次いで「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」が2割半ばであった。

(5) 市政情報を得るために利用したい手段

今後、市政に関する情報をどのような手段で知りたいか聞いたところ、「広報うつのみや」が7割で最も多く、次いで「新聞」、「テレビ」、「ホームページ」と続いている。

3. 男女共同参画について

(1) 社会全体で男女の地位は平等になっているか

社会全体で男女の地位は平等になっているかについては、「どちらかというとも男性の方が優遇されていると思う」が6割を超えて最も多く、次いで「平等になっていると思う」、「男性の方が非常に優遇されていると思う」と続いている。

(2) 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が約4割で最も多く、次いで「言葉も内容も知らない」、「言葉も内容も知っている」と続いている。

(3) 生活の中で何を優先するか

生活の中で何を優先するかについての【理想】では、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域の生活」のすべてを優先』が2割を超えて最も多かった。一方【現実】では、『「仕事」を優先』が約3割で最も多かった。

(4) 配偶者等から暴力を受けた経験

暴力を受けたことがあるかについて、「身体に対する暴力を受けた」、「経済的な暴力を受けた」、「社会的な暴力を受けた」、「性的な暴力を受けた」は「まったくない」が9割を超えた。「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた」は「まったくない」が9割弱で、「何度もあった」、「1、2度あった」の合計は1割弱であった。

4. COPD（慢性閉塞性肺疾患）・CKD（慢性腎臓病）について

(1) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度については、「知らない」が約5割で最も多く、次いで「名前は聞いたことがある」が3割台であった。

(2) CKD（慢性腎臓病）の認知度

CKD（慢性腎臓病）の認知度については、「言葉も意味も知らない」が5割を超えて最も多く、次いで「言葉は知っているが、意味は分からない」、「言葉も意味も知っている」が2割台であった。

5. ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について

(1) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度については、「言葉も意味も知らない」が5割半ばで最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」が1割半ばであった。

6. 自転車の利用促進について

(1) 自転車の利用目的

自転車を利用する目的については、「買い物など日常生活での移動」が3割超、「通勤・通学」が約1割であった。

(2) 宇都宮市は自転車を使用しやすい街か

宇都宮市は自転車を使いやすい街かについては、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【使いやすい(計)】が約3割であり、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【使いにくい(計)】が約6割であった。

(3) 宇都宮市の自転車施策の認知度について

自転車施策の認知度については、「車道内に整備した自動車レーン」、「JR線や東武宇都宮線の駅付近にある市営駐輪場」、「ジャパンカップサイクルロードレース」が約6割であった。

7. もったいない運動について

(1) もったいない運動の認知度

もったいない運動の認知度については、「知らない」が6割を超えて最も多かった。

(2) 実践している（実践したい）もったいない運動は何か

実践している（実践したい）もったいない運動については、「日常生活の中で、節電・節水に心がけるなど、環境負荷に配慮した生活に努めること」が7割を超えて最も多く、次いで「使えるものは最後まで使い切るなど、ものを大切に生活に努めること」が6割半ばであった。

8. 「家庭の日」について

(1) 「家庭の日」の認知度

「家庭の日」の認知度については、「知らない」が5割半ばで最も多かった。

(2) 「家庭の日」に実践していること

「家庭の日」に実践していることについては、「家族で食事する」が3割半ばで最も多く、次いで「家族で外出する」が2割弱であった。

9. 中央卸売市場の一般開放について

(1) 中央卸売市場の一般開放の認知度

中央卸売市場の一般開放の認知度と、来場回数については、「知らなかったが行ってみたい」が4割半ばで最も多く、次いで「知っているが行ったことがない」が約3割であった。

(2-1) 市場に来場して感じたこと

中央卸売市場の一般開放で、「ほぼ毎月」「7～10回」「1～6回」来場したと答えた方に、市場に来場してどのように感じたか聞いたところ、「価格が安い」が4割半ばで最も多く、次いで「品質・鮮度がよい」が約3割であった。

(2-2) 今後必要となるもの

今後必要となるものについては、「開催日時の変更（回数や時間の増加含む）」が3割で最も多く、次いで「休憩所」が2割半ばであった。

(3-1) 来場されなかった理由

中央卸売市場の一般開放の認知で「知らなかったが行ってみたい」、「知っているが行ったことがない」「知らなかったし、行くつもりもない」と答えた方の行かない理由については「知らなかった」が4割半ばで最も多く、次いで「近所の小売店・スーパーで十分」が約2割であった。

(3-2) 一般開放に望むこと

中央卸売市場の一般開放の認知で「知らなかったが行ってみたい」、「知っているが行ったことがない」「知らなかったし、行くつもりもない」と答えた方の一般開放に望むものについては、「価格が安い」、「品質・鮮度がよい」が共に5割半ばであった。

10. 宇都宮市産の農畜産物について

(1) 「うつのみや産」の農畜産物の購入状況

「うつのみや産」の農畜産物を積極的に購入しているかについては、「どちらかと言うと選択している」が4割半ばで最も多く、次いで「あまり選択していない」が約3割であった。

(2) 「農業王国うつのみや」を目指した取組の推進を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「どちらかと言うと大切にしたいと思う」が約6割で最も多く、次いで「強く大切にしたいと思う」が3割半ばであった。

1 1. がん検診の受診状況について

(1) 3年以内のがん検診受診状況

3年以内のがん検診受診状況については、「受診していない」が4割半ばで最も多く、次いで「市の検診以外（職場検診など）で受診」が2割半ばであった。

(2) 受診していない理由

受診していない理由については、「仕事や家事で忙しいから」が3割で最も多く、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」がほぼ2割であった。

1 2. 「オープンデータ」の公開について

(1) 「オープンデータ」の認知度

「オープンデータ」の認知度については、「知らない」が8割半ばで最も多かった。

(2) 「オープンデータ」推進時に期待するもの

「オープンデータ」推進時に期待される効果については、「防災、減災のための情報伝達の効率化」が6割弱で最も多く、次いで「行政の信頼性、透明性の向上」が4割半ばであった。

(3) 望ましいオープンデータ化情報

望ましいオープンデータ化情報については、「防災安全情報」が6割半ばで最も多く、次いで「公共施設情報」が約4割であった。

1 3. 健康づくりについて

(1) 毎日健康で充実した生活をしているか

毎日、健康で充実した生活をしているかについては、「まあしていると思う」が4割半ばで最も多く、次いで「あまりしていないと思う」、「していると思う」、「していないと思う」と続いている。

1 4. 生物多様性について

(1) 生物多様性の認知度

生物多様性という言葉の認知度については、「聞いたことはあるが意味は知らない」が5割弱で最も多く、次いで「まったく知らない」が3割半ばであった。

1 5. 生涯学習について

(1) 講座で取り組む必要性が高いと考える「社会的課題」

講座で取り組む必要性が高いと考える「社会的課題」については、「超高齢社会に関すること」が6割弱で最も多く、次いで「少子化問題・子育てに関すること」が4割弱であった。

16. 市政情報コールセンターと「よくある質問」について

(1) コールセンターの認知度

コールセンターがあることを知っているかについては、「知らない」が8割半ばであった。

(2) コールセンター利用状況

コールセンターを利用したこと（電話をかけたこと）があるかを聞いてみると、「利用したことがある」はほぼ1%で、ほとんどの方が「利用したことはない」と答えている。

(3) ホームページの「よくある質問」検索システムの認知度

ホームページの「よくある質問」検索システムがあることを知っているかについては、「知らない」が8割半ばであった。

(4) ホームページの「よくある質問」の利用状況

ホームページの「よくある質問」を利用した（調べた）ことがあるかについては、「利用したことがある」はほぼ1割で、大半の人が「利用したことはない」と答えている。

17. 特別支援教育について

(1) 「発達障害」の認知度

「発達障害」の認知度については、「どのようなものか、ある程度知っている」が4割半ばで最も多かった。

(2) 「特別支援教育」の認知度

「特別支援教育」の認知度については、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が5割半ばで最も多かった。

18. 住宅用火災警報器について

(1) 「住宅用火災警報器」設置義務の認知度

全ての住宅等に『住宅用火災警報器』の設置義務の認知度については、「知っている」が9割を超えて最も多く、一方「知らない」は1割に満たなかった。

(2) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

現在、自宅に『住宅用火災警報器または自動火災報知設備』が設置されているかについては、「住宅用火災警報器が設置されている」が6割半ばであった。一方「どちらも設置されていない」が2割半ばとなっている。

(3) 「住宅用火災警報器」を設置していない理由

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」のどちらも設置されていないと答えた方に『住宅用火災警報器』を設置していない理由については、「どのくらい効果があるのかわからない」が約4割半ばで、次いで「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が約2割であった。

(4) 「住宅用火災警報器」の点検等実施状況

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」が設置されている方が『住宅用火災警報器等』の点検等を実施しているかについては、「布で拭くなどにより、定期的に掃除している」、「ひもを引くまたはボタンを押すなどして、定期的に作動点検をしている」が2割であった。